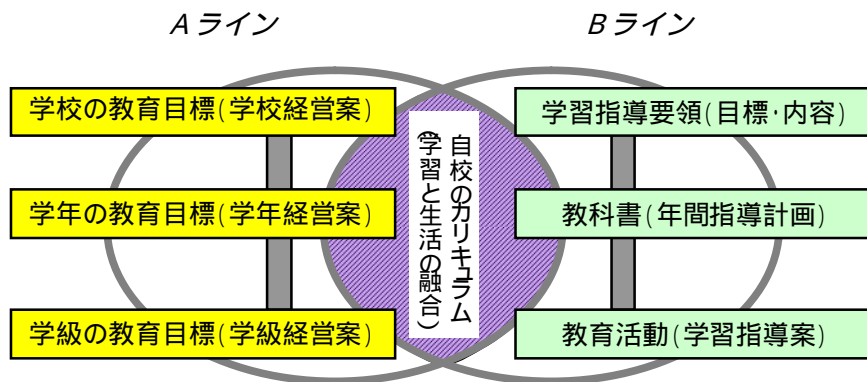


最近、学校の教育目標と日々の教育活動の両者の整合が問われてきている。学校の教育目標の具現化には、各校の教育課程や各教科等の年間指導計画、学年(学級)経営案が不可欠になる。実は、ここに2つのライン(下図)が存在しているが、あまり意識されていないと思う。

まず一つは、学校・学年・学級を経営するというライン(A)であり、経営者としてトータルに子どもを育てようとするビジョンである。今一つは、担任や担当が学習指導要領の目標や内容に従い、日々の授業を構成する際の実践的なライン(B)である。今、授業(学校の全ての教育活動を指す)は何を求めて構成されているか、学校の教育目標の具現化に向かって授業が構成されたものとして教職員が自覚しているかが重要になる。



教育目標を達成させる自校のカリキュラム

また、今日の授業が、学級目標の達成に向けて展開されたものか、単元目標の達成のために構成されたものなのか、授業者は意識しているのだろうか。研究授業においても、主眼やめあてから評価しても、学級目標からの評価は多分されていないだろう。最近、叫ばれている授業改善の目的が、学力向上、とりわけ点数アップのためと取り違えられている傾向があり、授業を改善する意味に不安が残る。教師の不断の努力であり責務である授業改善は、子ども一人ひとりに力を付けるためでもあるが、学級目標の達成のため、結果的に学校の教育目標の達成のために行うものと確認したい。(芝)